

平成 17 年度におけるファカルティディベロップメント

平成 16 年度に実施した学生によるカリキュラムアンケートの集計の結果明らかになったカリキュラムや教育システムにおける問題点や課題に対して、平成 17 年度において研究科および各専攻で取り組んだ改善の試み（ファカルティディベロップメント，FD）についてまとめる。

情報学研究科におけるFD

【設問 1】入学の動機について

アンケート結果に対する直接の対応ではないが、学生受け入れ方針や教育内容を事前に公開することで個々の学生の入学動機との整合を図るため、平成 17 年 7 月の教務委員会において情報学研究科のアドミッションポリシーを制定し、その後、研究科ホームページ、大学院入試学生募集要項で公開している。各専攻のアドミッションポリシーについても順次、制定中である。

【設問 3】カリキュラムに対する満足度

1) シラバス

従来は冊子体で刊行される「大学院履修要覧」において、各授業科目についてのシラバスと呼ばれる数行の授業内容の説明があるのみであったが、平成 17 年度後期から専攻基礎科目を中心に、授業の計画や目標や成績評価方法を記したシラバスを作成し、研究科と各専攻のホームページで公開を開始した。

3) ガイダンス・履修指導

平成 17 年 4 月の各専攻のガイダンス・履修指導において、卒業に必要な単位数、博士論文の申請などについて、前年より詳しい説明を行うよう担当者に要望した。

4) 教務関係の事務的なサポート

教務事務の昼休みの時間帯を変更した。

【設問 7-1】「情報学展望」について

リレー講義形式について学生の受けとめ方は様々であった。必ずしも先端研究ばかりに興味があるともいいきれない調査結果であったが、授業のまとまりを求める声は多かった。そこで、平成 18 年度に開講する「情報学展望」は全体として内容や講義形式にバラエティをもたせるとともに、個々の授業には一定の方向性やまとまりを求めることとした。具体的には、先端的な通信工学・電気電子工学研究に関するリレー講義形式の「情報学展望 1 B」、企業における数理・システム工学研究を 2 週毎に担当者を変えて解説する「情報学展

望 2 B」, 医学・生物学と情報学の関わりに関する研究科教員による講義「情報学展望 3B」の構成とした。このうち, 1B, 2B は 21 世紀 COE の提供による前期開講科目, 3B は後期開講科目である。

【設問 7-2】希望する科目新設

学生の希望を考慮した科目新設は各専攻に任せているが, 平成 17 年 7 月の文部科学省「魅力ある大学院教育イニシアティブ」への社会情報学専攻の応募に際して, 英語会話の教育機会の導入を研究科全体の学生を対象としたものとするよう要望し, 採択後は「戦略的コミュニケーションセミナー」として平成 17 年後期からこの主旨に沿って実施されている。

知能情報学専攻における F D

知能情報学専攻では, これまで, 講義科目については, 厳選したものを継続的に提供するという方針であったために, 専攻提供科目の弾力的な運用を行ってこなかった。一方, カリキュラムアンケート結果から, 最先端の研究分野や技術, 関連分野の研究や技術についての科目の新設, および, 非情報系出身者に対する専門基礎科目の充実が要望されていることが分かった。

これを受け, 知能情報学に関する学問分野について, 幅広い観点から講義を行う「知能情報学特別講義」を新設することとした。本講義はごく少数の教員が担当し, 特定の学問分野について, 基礎から最先端研究まで概観する。平成 18 年度は「カルチュラルコンピューティング」を取り上げ, 土佐尚子氏 (学術情報メディアセンター特任教授) が担当する予定である。

非情報系出身者への専門基礎科目の充実については, 学部専門科目との連携を探る方向で検討を進めており, 次年度以降具体化を行う予定である。

社会情報学専攻における F D

学生によるカリキュラムアンケート調査の結果を基にして, 専攻カリキュラムに関する学生の意見を検討した。その結果, 修士課程学生については, おおむね現行のカリキュラムに対して満足しているものの, 博士課程学生については, 専攻の教育・指導について改善する必要があることが窺えた。そこで, 平成 17 年 12 月 26 日に博士課程学生と専攻教員との意見交換会を実施した。この意見交換会で出された意見を今後の博士課程の教育・指導の改善に反映させていくことにしている。

複雑系科学専攻におけるFD

カリキュラムアンケートの調査結果には、個々の科目および教員に対する強い改善要求は現れていないが、高度な情報学・数理科学を身につけた人材を社会に輩出するためには、講義科目の改善が有効との結論に達した。

本専攻では資格試験的性格を重視した入学試験を行っているが、昨今、本専攻においても修士課程院生の広い分野に対する基礎学力という点では不足した学生が若干見受けられる。また本専攻の院生が就職する企業等からは、専攻分野の深い専門知識の他に、幅広い学識を求める声が聞かれる。これに対して平成17年11月14日と12月5日における専攻会議において講義科目の改善についての検討を行なった結果、専攻専門科目については現状を踏襲しつつ、専攻基礎科目の「通論」を充実することを平成17年度の専攻教育FDと位置づけることとした。

具体的には、現行の「通論」3科目をそれぞれ「通論A」と「通論B」（隔年開講）の合計6科目とした。履修指導により、必要な学生には2年間で6科目を履修させ、特に自専門分野以外の広い分野に対する基礎学力の充実と学識の涵養を図る予定である。

数理工学専攻におけるFD

数理工学専攻に所属する学生からは、金融工学、ビジネス、マーケティングなど経済・経営方面において数理工学がいかに役立っているかについて科目新設を求める声が目についた。また専攻の将来構想でも数理工学と社会との接点を重視していくこととなっている。そこで、平成18年度から1単位の集中講義科目「数理ファイナンス」を新設し、銀行、証券会社など金融関係の企業からオペレーションズ・リサーチや経営工学を中心とする数理工学の実務家を非常勤講師として招くこととなった。

システム科学専攻におけるFD

システム科学専攻所属の学生からは、実社会のビジネスに直結する科目や民間企業の専門家による講義、ディベートや発表の訓練を通じて他の研究室との連携を深めることができるような科目の新設を求める意見が挙がった。本専攻では、このアンケート結果に基づいて平成17年11月8日、12月6日の2回にわたり議論を重ねたが、実務家による講義やディベートの訓練は、実用性・実証性を重視するとともに多様な専門性を有機的に結合できる人材を育成するという専攻の教育理念にも直結するため、平成18年度は、まず全ての

教員による講義科目「システム科学通論」を新設し、本科目においてディベートや発表の訓練も行うこととなった。また、システム科学に関係の深い実務家を民間企業より非常勤講師として招くための準備に着手し、平成 19 年度以降に実現する予定である。

通信情報システム専攻における F D

本専攻の特色の一つである通信情報システム産業応用論では、ここ 2 年ほど VLSI を中心として産業界から講師を招いてきた。これにキャリア系企業からの講師も加えて欲しいという要望がでた。本年度が現在の陣容の最終年度であり、来年度から、この希望を取り入れた形で、新しい陣容を決定することになった。博士課程に進学するときの障壁が（本専攻にかぎらず）数多く指摘されていた。特に博士課程進学後の進路に強い不安感を持っている学生が多く見受けられた。そこで、研究室単位で学生のこのような不安感の実体を更に詳しく調査して、その結果を専攻企画委員会で討議することになった。

平成 18 年 2 月

平成 17 年度教務委員会